

手のひらにのるアート作品展

第42回 JAMA 日本アートメダル展

JAPAN ART MEDAL EXHIBITION XLII

作品目録

JAMA

ART
MEDAL

2025

展覧会会期：

令和7年11月1日(土)～8日(土)

※4日(火)は休館

9:30～17:30(入場は17:00まで)

最終日は15:00まで(入場は14:30まで)

展覧会会場：東京都美術館 ギャラリーB(地下3階)

<https://www.tobikan.jp>

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL.03-3823-6921(代表)

日本芸術メダル協会



第42回日本アートメダル展記念メダル

「一寸法師と鬼」

日本の古典的な物語からインスピレーションを受け、円形の中にその世界を刻みました。一寸法師という小さな存在に立ちはだかる鬼は、力強く荒々しい一方で、人間的な魅力も宿しています。

日本的な造形美を探りながら、この小さなメダルに物語の緊張感を込めました。

2025年11月

日本芸術メダル協会員 武本 大志

第42回日本アートメダル展 開催ご挨拶

今年も「日本アートメダル展」は東京都美術館で開催される運びとなりました。後援を頂いております独立行政法人造幣局様はじめ、各協賛企業様のご協力により、第42回展を無事に開催するに至りましたこと、大変喜ばしく、ここに厚く御礼申し上げます。また、作品の審査をしてくださいました立教大学教授・文学部学部長・文学研究科委員長であられる加藤磨珠枝氏にも心より感謝申し上げます。

日本芸術メダル協会は昭和43年の創設以来、アーティスト、メダル製造業者、コレクターなどがまとめ、日本におけるメダル芸術文化の発展を願い、活動を続けております。なかでも国内での展覧会はメダル文化の紹介の場として、またメダル制作技術継承の機会となることを目的とし、これまでも数多くの作品を発表して参りました。これらの作品は国際レベルのメダルも数多く、国際メダル連盟（FIDEM）でも高い評価を頂いております。

今回の展覧会では、会員以外にも公募で作品を募集した【コンペティション部門】と、会員または準会員による【会員出品部門】がございます。一見するとメダルとは思われないような作品も数多く出品されておりますが、基本のスタイルはレリーフを主体とし、古代からさほど変化しておりません。メダルの解釈は様々であり、表面と裏面があるのが当然と思われがちですが、表面と裏面がないものもメダルなのです。メダルとは「手のひらにのるアート」です。アートメダルの世界は日々進化しており、日本芸術メダル協会でも日本アートメダル展を通してクラシックなメダルを守りつつ、同時に新しいチャレンジもしております。永年の会員から若手作家の作品に至るまで、どれも力作になっておりますので、デザイン、表現技法など様々な角度から鑑賞して頂き、一つの特異なアート分野であることを認識して頂けたら幸いです。

また、筑波大学の教育機関によるメダル作品、女子美術大学短期大学部の教職過程で制作したアートメダル群、さらに独立行政法人造幣局様のメダル作品も展示公開させて頂くことが出来ました。他にもメダルの製造工程を説明した展示などもございますので合わせてご覧ください。ご来場いただく一人でも多くの方々が、明日への明るい希望やエネルギーを得てお帰り頂ければ幸いです。本日はご来場いただき誠に有難うございます。どうぞごゆっくりご鑑賞くださいませ

令和7年11月

日本芸術メダル協会（JAMA）

理事長 鈴木 敬二

審査委員長 講評

メダルの芸術性を追求するために、1969年に「創作メダル彫刻展」という名称で創設され、2018年から「アートメダル展」と改称された本展は、今年で第42回を迎えました。応募作品は、その形状はもちろん、使用素材、技法などもきわめて多様で、メダルという媒体そのものの表現の可能性について再考をうながす力作が数多く見られました。

西洋では古代以来、メダル芸術についての長い歴史があります。それは皇帝や英雄、勝者を称えるために彼らの肖像を刻んだり、史蹟などを記念するための神話的主題、巡礼記念や信仰の証しとしての宗教的象徴を表したりと、さまざまな造形として流布してきました。それは現代においてもオリンピック競技のメダル表彰など、人々の暮らしの中にずっと息づいています。メダル文化は日本でも、特に明治以降の博覧会や国家行事などの記念メダルへと受け継がれて、現在にいたります。

日本芸術メダル協会主催の本展の役割は、この長い歴史を持つメダルという表現媒体の現在の位置を毎年更新していくものでありますが、コンペティション部門の審査では、伝統的なメダルの意義を受け継いだものから、作家個人の自由な発想を形にしたものまで幅広い解釈が印象的でした。

本展の審査は3名の審査員が一堂に会して、出品者情報を伏せた状態で、応募作品全体を鑑賞しながら行われました。メダルという表現媒体は、光の状態で見え方がかなり変化するため、自然光のもとで鑑賞したり、光の角度を変えてみたりと、一つの作品を異なる環境におきながら厳正な審査が行われました。第1次審査にて候補作品を10点にまで絞り込み、その後、第2次審査では、審査員が各候補作の講評を行いながら作品理解をさらに深め、公正なる審査の結果、各受賞作が決定されました。

加藤磨珠枝（立教大学教授・文学部長・文学研究科委員長）



日本芸術メダル協会大賞

鈴木 まき 非会員

「朝 露」

素 材：銅、真鍮、七宝釉薬：平置

思惟にふける仏像の顔や優雅な手などが、七宝技法による美しい色彩で表現されている。寸法の異なる4パーツが有機的に組み合わせられることで、時間の流れまでも感じさせ、本作タイトル「朝露」という一瞬のきらめきと、悠久の歴史、文化を一つにまとめあげるような壮大さが魅力である。「芸術メダル」という名にふさわしい自由な発想と、高い芸術性を兼ね備えた作品である。



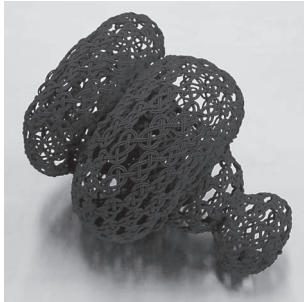
造幣局理事長賞

皆川 嘉博 非会員

「海へ 一気仙沼震災復興・伝承彫刻に捧ぐー」

素 材：陶、炭火還元焼成：平置

凜とした女性の半身像が、青い海の水平線をバックに浮かび上がる場景が印象的である。円形の陶浮彫という伝統的な造形のなかに、作者の彫塑的世界観と高い技術力が凝縮され、見事な芸術作品へと昇華されている。2011年の東日本大震災によって悲劇の現場となった宮城県気仙沼の海に捧げられた本作品は、人々の集合的記憶、祈りを刻むものとして、まさにメダルの持つ社会的意義を体現している。



コンテンポラリーアートメダル大賞

山本 愛 非会員

「過去と今と」

素 材：水引（和紙）：平置

和紙をこより状にして、水糊で固めた飾り紐で編みあげた「水引」は、日本の伝統的な工芸品であり、その素材自体に「人と人を結ぶ」という象徴的な意味が込められている。真っ赤な水引が三次元の幾何形体として立ち現れる姿は、抽象的な美しい完成度を示しながらもどこかユーモラスで、斬新なメダルの小宇宙が展開している。



新 人 賞

菅沼 奈々 会員

「もう一度咲く」

素 材：ペットボトルキャップ：平置

この薔薇の花を象ったメダルは、誰に捧げられたものなのか。ペットボトルキャップという身近で安価な素材を利用した本作は、子ども時代に誰もが制作したことのある、家族への贈り物、あるいは自分自身へのご褒美のような親密な愛を想起させる。メダルのもつ重厚なイメージを軽やかで身近な存在へと描き換えており、新人賞にふさわしい瑞々しさをたたえている。

【コンペティション部門】 受賞作品 (4点)

日本芸術メダル協会賞



「朝 露」

鈴木 まき

メダル 140×13

素 材：銅、真鍮、七宝釉薬：平置

造幣局理事長賞



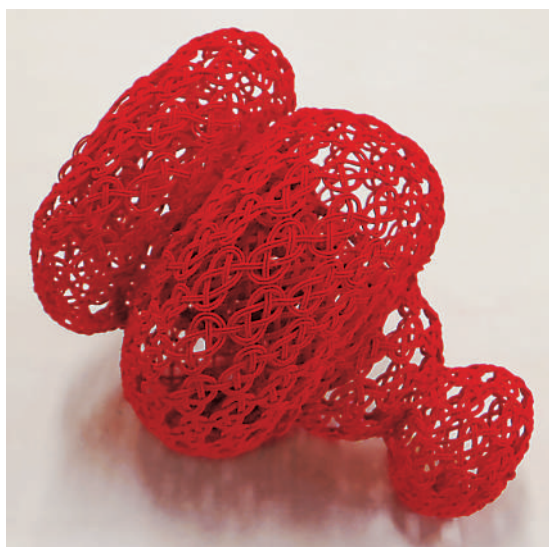
「海へ ―気仙沼震災復興・伝承彫刻に捧ぐ―」

皆川 嘉博

メダル 130×130×10

素 材：陶、炭火還元焼成：平置

コンテンポラリー・アートメダル賞



「過去と今と」

山本 愛

メダル 120×110×70

素 材：水引（和紙）：平置

新 人 賞



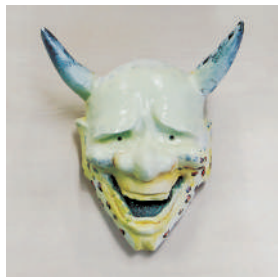
「もう一度咲く」

菅沼 奈々

メダル 140×140×60

素 材：ペットボトルキャップ：平置

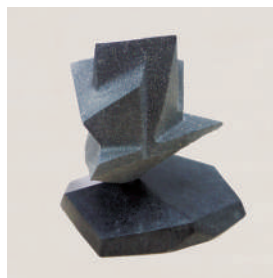
入選作品 (41点) 順不同



JAPUNK

鹿野 良孝

メダル 130×100×70
素 材：石膏粘土・木：平置立掛



我 煩惱

江藤 佳央琉

メダル 145×110×145
素 材：石材：平置



再生と復活

美馬 庄一

メダル φ70 厚さ2
素 材：銅：平置



剣方喰

美馬 庄一

メダル φ105 厚さ10
素 材：銅板：平置



WHY

入口 可奈子

メダル φ97 厚さ10
素 材：新聞紙、石膏：平置



Olga

北原 朋佳

メダル 100×100×30
素 材：石塑粘土：平置



Earth Face

佐藤 洋子

メダル 145×110×70
素 材：銀・銅・真鍮・箔・漆：平置



水をくみに
一気仙沼震災復興・伝承彫刻に捧ぐー

皆川 嘉博

メダル φ130×10
素 材：陶、炭火還元焼成：平置



TOMORROW-希望(イ)

重田 恵美子

メダル 120×120×120
素 材：ステンレス：平置



TOMORROW-希望(ロ)

重田 恵美子

メダル 120×120×120
素 材：ステンレス：平置



穏やかな秋の日に

水津 ひろ子

メダル 80×60×15
素 材：銀：平置



For you

水津 ひろ子

メダル 80×70×20
素 材：銅：平置



「Look at me」
～助けを求める地球と
自然と瀕滅種達～

飯野 愛莉

メダル 115×115×90
素 材：木：平置



bara

後藤 明良

メダル φ63 厚さ5
素 材：ブロンズ：平置



チェリーニ

大西 崇史

メダル φ84×18
素 材：木材、銀：平置



ブーケ

鈴木 満理奈

メダル 100×100
素 材：紙：平置



Peaceful Animals 1

鈴木 春生

メダル 120×120×120
素 材：木材、樹脂絵の具：平置



Peaceful Animals 2

鈴木 春生

メダル 120×120×120
素 材：木材、樹脂絵の具：平置

おひとつからでも！

大切な記念品・アクセサリーには、人それぞれの思い出がたくさん詰まっています。貴重な品々を大切に保管するケースをおつくりします。オーダーメイドも承っております。お気軽にご相談下さい。



小倉ケース工業株式会社

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-8-5

TEL 03-3834-0251 FAX 03-3834-0255

E-mail ogr-case@jcom.home.ne.jp



〒110-0005
東京都台東区上野1-10-10
うさぎやビル3階

コモキン

TEL 03-3836-0471(代表)
FAX 03-3836-1790
<https://comokin.com/>



宵月の風

大塚 武司

メダル 123×150×55
素 材：鉄 金箔 色箔：吊し



薄暮の風

大塚 武司

メダル 110×150×50
素 材：鉄 金箔 色箔：吊し



東雲の風

大塚 武司

メダル 120×150×45
素 材：鉄 金箔 色箔：吊し



Treasure from Hollandia, sunk 1743,
Scilly / *Dryopteris erythrosora*
April 9 2025

瀬田 哲司

メダル 105×105×33
素 材：silver950：平置



40 Réis Brazil 1815 /
Sedum bulbiferum June 2025

瀬田 哲司

メダル 70×40×22
素 材：silver950：平置



5 Pesetas Spain Alfonso XIII 1898 /
Vaccinium corymbosum June 2025

瀬田 哲司

メダル 63×35×18
素 材：silver950：平置



5 Kopecks Russian Empire
Екатерина II 1763 /
Cinnamomum camphora
November 2024

瀬田 哲司

メダル 44×43×37
素 材：ブロンズ：平置



40 Nummi Byzantine Empire
Anastasius I Dicorus /
Fraxinus lanuginosa January 2025

瀬田 哲司

メダル 91×32×6
素 材：ブロンズ：平置

一つから作れる
オーダーメイド
記念品の専門店

品揃え一万点超！



123トロフィー
<https://www.123-trophy.com/>
TEL:050-5212-9913

株式会社
東光ケース

◆装身具 ◆メダル ◆工芸品
◆賞状ファイル ◆特注ケース
◆紙箱 ◆包丁セット ◆楽器



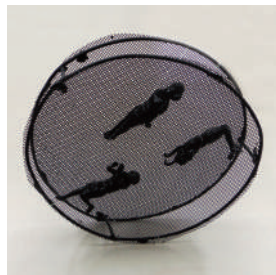
本 社 〒343-0841 埼玉県越谷市蒲生東町6-45
越谷工場 TEL 048 (988) 2161・FAX048 (986) 4970
E-mail: takagi@tokocase.co.jp



国常立尊

中田 晋一

メダル 150×150×150
素 材：ミクストメディア：平置



嗚呼

菅沼 克敏

メダル 140×140×30
素 材：ステンレス・プラスチック・ナイロン
：平置



海の花

菅沼 奈々

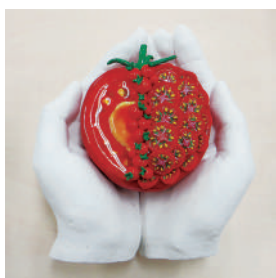
メダル 110×110×15
素 材：貝殻、レジン：平置



糸の花

菅沼 奈々

メダル 110×110×30
素 材：布、糸：平置



手のひらにのるtomARTo

菅沼 奈々

メダル 140×140×70
素 材：石膏、レジン、粘土：平置



音のひかり

菅沼 奈々

メダル 140×130×80
素 材：プラ板、レジン：平置



381系の引退

柴田 光穂

メダル 80×80×10
素 材：ブロンズ：平置



鳥

柴田 光穂

メダル 75×88×13
素 材：ひのき：平置

【技術と信用】

鈴木徽章工芸株式会社

■バッジ ■メダル ■カップ
■トロフィー ■ピンブローチ
■ネクタイピン ■カフス釦
■銀盃 ■優勝旗 ■各種記念品 立案調製

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL.03-3814-1811 FAX.03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
https://www.suzuki-kisho.co.jp

SANSHO 金賞・銀賞・銅賞の
三賞株式会社

表彰楯、トロフィー、カップ、
金属加工品やクリスタル、メダル、
装飾品などのオーダーメイド商品
の発注なら三賞にお任せ下さい。

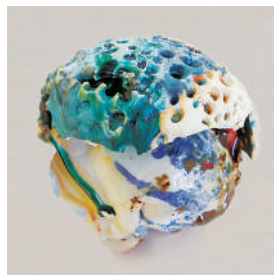
〒113-0023
東京都文京区向丘1-9-15
TEL.03-3816-3401
<https://www.3sho.jp>



ゆらぎ

宮本 温子

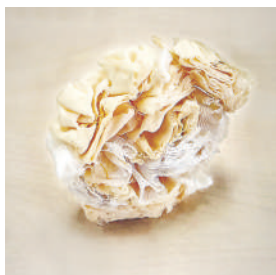
メダル
素 材：陶：平置



ふくらみ

宮本 温子

メダル
素 材：陶：平置



断面 a.

井上 由美

メダル 80×80×100
素 材：布：平置



断面 b.

井上 由美

メダル 50×50×90
素 材：布：平置



断面 c.

井上 由美

メダル 40×40×20
素 材：布：平置



断面 d.

井上 由美

メダル 50×50×30
素 材：布：平置



DANTE

田上 雅人

メダル 90 × 62 × 13
素 材：黄楊：平置

コンペティション部門

応募作品数：45点 応募者数：25名

審査日：令和7年9月26日(金)

審査委員長：加藤 磨珠枝(立教大学教授、文学部長、文学研究科委員長)

審査員：川 隅 重 美(元造幣局工芸管理官、メダル彫刻家)

審査員：鈴木 敬 二(日本芸術メダル協会理事長)



—— お陰様で127周年 ——
創業明治30年 松本徽章工業株式会社

<https://www.matsumoto-kisho.co.jp/>

■本社/営業部 〒111 - 8566 東京都台東区元浅草1-12-2
TEL 03-3842-6161 FAX 03-3842-6267

■日本橋営業所 ■工場/製造部 ■横浜支社

バッジ・メダル・名誉章・タイ止・キーホルダー・カップ・トロフィ・
楯・盃・旗・名札・額・胸像・純金地金

創業70年の技術と信頼を金属に込めて
チーム・企業の発展を応援する



有限 青谷製作所
会社

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130番地
TEL 03-3268-5425 FAX 03-3268-5426

E-mail : aotaniss@wmail.plala.or.jp
<https://www.aotaniss.com>



【会員出品部門】 (18点)順不同



音芭'25レリーフ

松田 光司

メダル原型 200×165
素 材：テラコッタ・木額：吊し



Otoha'25レリーフ

松田 光司

メダル原型 200×165
素 材：テラコッタ・木額：吊し



コア君は悪いお天気に
税金をかけます(1)

伊藤 尚子

メダル 145×95×5
素 材：木、漆、螺鈿：平置



コア君は悪いお天気に
税金をかけます(2)

伊藤 尚子

メダル 130×120×5
素 材：木、漆、螺鈿：平置



コア君は悪いお天気に
税金をかけます(3)

伊藤 尚子

メダル 130×130×5
素 材：木、漆、螺鈿：平置



底に咲く

菅沼 奈々

メダル 200×200×50
素 材：石膏：平置



M・K

菅沼 奈々

メダル 200×200×20
素 材：アルミホイル、紙：吊し



Anything Can Happen.

菅沼 奈々

メダル 150×150×100
素 材：レジン、布：平置

有限会社 正 英



正英は、表彰・記念品・オリジナル製品を専門とする会社です
電話でのお問い合わせは TEL.03-3893-1315
〒114-0011 東京都北区昭和町2-17-7 正英ビル

株式会社 日本金属工芸研究所
JAPAN METAL ART AND CRAFT CO.,LTD.

レリーフ・表彰楯
ブロンズ像・アートメダル



トロフィー
アクセサリ
胸像・立像
美術工芸品

<https://www.jmaac.co.jp/>
<https://www.nihonkinzoku.com/>

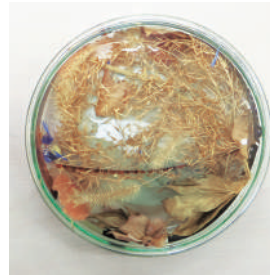
〒113-0023
東京都文京区向丘1-6-12
TEL : 03-3811-7709
FAX : 03-3813-0003
E-mail : info@jmaac.co.jp



Edelweiss flowers and
Dr.Saburo Hara

北村 公晴

メダル $\phi 50$ (額 235×215)
素 材：真鍮：吊し



Nekra Pasta No.2

古屋 様子

メダル $\phi 150$
素 材：ミクストメディア：平置



殖(錐-1)

宮島 義清

メダル原型 $110 \times 115 \times 310$
素 材：木(ハシドイ)：平置



殖(錐-2)

宮島 義清

メダル原型 $170 \times 175 \times 380$
素 材：木(樺)：平置



作品

江尻 昭子

レリーフ 190
素 材：：平置



Continuous 1988-2025
Medal

山田 敏晶

メダル $90 \times 90 \times 1$
素 材：錫：平置



TUN-R7BR

山田 敏晶

メダル $60 \times 60 \times 2$
素 材：真鍮：平置：平置



TUN-R7SU

山田 敏晶

メダル $60 \times 60 \times 2$
素 材：ステンレス：平置



平面 I

川隅 重美

レリーフ 160×130
素 材：：平置



平面 II

川隅 重美

レリーフ 160×130
素 材：：平置

「アートメダル」ってなに？

今回ここ東京都美術館に展示されている作品たちは美術のジャンルとしては「アートメダル」と言われるものです。それでは「アートメダル」とは一体なんでしょう。ここでは異なるバックボーンを持つ5人のアーティストたちに1問1答でさまざまな「アートメダル」に関する問いを投げかけてみました。

アーティストたちも日々作品と向き合うなかでその答えを探し続けています。ぜひあなたの答えもお聞かせください。

Q アートメダルとは何ですか？



Thirty Three Jewels of FIDEM
フィデムの三十三個の宝石
Lynden Beesley

私の場合：特別な日のための精神。あるいは個人的な内容を持つもの。

アートメダルには意味やメッセージがある。

最高のアートメダルとは、素材、形、内容がうまくマッチしたものです。

FIDEMオランダ Ms.Linda Verkaaik

私にとってアートメダルとは、特別なメッセージを伝えたり、友人や家族、地域の人々の個人的な生活における特別な出来事を記念することができるメダルです。また政治的、歴史的なメッセージに重みを与えることもできます。

FIDEMカナダ Ms.Lynden Beesley



When the sage points at the moon,
the fool looks at the finger
Kerstin Östberg

そこには思想や感情があります。小さな表面に彫刻の言語で全体の物語を語ることができます。小さな表面には unnecessary 部分が許されない。アーティストは要点を言うべきです。テーマ、素材、サイズが完璧なユニットを作れます。

FIDEMハンガリー Ms.Virag Szabo

メッセージを含む手に持てるオブジェクトです。

FIDEMスウェーデン Ms.Kerstin Östberg

手のひらにのるアートです。

FIDEM日本芸術メダル協会 大西 崇史さん

Q. アートメダルの定義は何ですか？定義はあるのでしょうか？

アートメダルは、一定のサイズに適合していなければならない、寸法内のすべてのスペースを占有することができます。それは、すべての面に情報を持つことができますが、それは両面にすることができ、情報は表面から裏面に流れることができます。複製が可能であること。芸術メダルは、金属製である必要はありません。

FIDEMカナダ Ms.Lynden Beesley

手に取ることができることが条件です。

アートメダルは3面体です。表は横を通して裏になります。裏は表から理論的に発生するものではありません（鼻が前にあって髪が後ろにあるように、それは彫刻です）。

良いメダルでは、裏側に表側からの視点の変化を与えます。

FIDEMオランダ Ms.Linda Verkaaik

In my hands
大西崇史



手にフィットすることが求められます。サイズについては、150×150×150mmを超えてはならないという一般的な合意があります（今回のFIDEM TOKYO 2020の場合）。

アートメダルは、片面、両面、または3面のいずれかです。アートメダルは、グラフィックと彫刻の中間です。空間的なグラフィックであると同時に、平面的な彫刻でもあるのです。

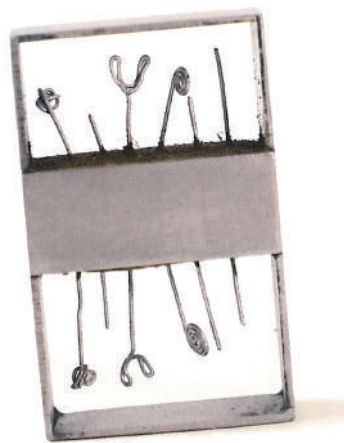
FIDEMハンガリー Ms.Virag Szabo

いろいろな定義があると思います。私はアーティストとして、この機会にアートメダルを使って表現することにしました。驚嘆の瞬間と、そのさまざまな側面の停止を含んでいるので、私に合っています。

FIDEMスウェーデン Ms.Kerstin Östberg

定義はあると思います。アートメダルは生き様です。

FIDEM日本芸術メダル協会 大西 崇史さん



My pocket-Gardens I. (A Drop of Silence)
Virag Szabo

Q. コインとメダルの違いは何ですか？



Harmony
大西崇史

コインはお金として使われるもので、異なる額面を持ち、商品の購入やサービスへの支払いに使用されます。アートメダルは特別な機会、人、場所を記念し、感情や気持ちを伝えるために使用されます。メダルはコインよりも大きく、必ずしも耐久性のある素材で作られているわけではありません。耐久性のある素材で作られているとは限らないので、通貨として使用することはできません。

FIDEMカナダ Ms.Lynden Beesley

コインでは支払いができ、メダルではお祝いや記念をします。

FIDEMオランダ Ms.Linda Verkaaik

コインは通常、支払いの手段です。造幣局で作られ、大量に生産される。貨幣は常に平らである。

メダルは通常、お祝いや記念のため、あるいは単なる自己満足のためのものです。

サンプルは手作業で作られ、時には鋳物工場で鋳造されます。しかし、その数はわずかです。しかし、数は少なく、唯一無二の存在であることに変わりはない。しかし、最近のメダルはどんな素材でも作ることができます。

FIDEMハンガリー Ms.Virag Szabo

メダルを授与されるには、その価値がなければなりません。メダルには、物語を伝えたり、イベントを記念したり、感謝を示したりする目的があります。アートメダルの価値は、芸術的な価値です。

人々は、コレクションを形成する楽しみのためにメダルを購入し、それがどのように完成するかを見て、個々の部品がどのような背景を持っているかを発見するかもしれない。

硬貨は貿易の合意通貨として使われる。

FIDEMスウェーデン Ms.Kerstin Östberg

コインは共通の価値観があり、メダルは独自の価値観がある。

FIDEM日本芸術メダル協会 大西 崇史さん

Q. アートメダルを制作する上での難しさは？

ホームスタジオを持つ彫刻家として、私は自分のメダルを制作する方法を少しずつ学んできました。まだまだ学ぶべきことは多い。石膏の型は厄介だし、粘土にはアンダーカットができない。最新のシリコン型は、より寛容ですが、高価です。一連のワックスコピーを作り、それを鋳造することは、メダルを一枚一枚生産するよりも安い。表裏のあるメダルを作るのは大変です。

FIDEMカナダ Ms.Lynden Beesley

全てではありませんが、アートメダルはコインのように平らではないので、プレスすることができません。そのため、メダルは一枚一枚作り直さなければならず、その分コストがかかります。

より多くのメダルを作るには塊が必要で、1枚ごとに新しい形を作らなければなりません。

FIDEMオランダ Ms.Linda Verkaaik

メダルをブロンズに鋳造する際、最もリスクの高い方法は、シレベルデュ技法によるものです。この方法ではサンプルが残らないため、型取りに失敗すると、アーティストはメダル全体を再度用意しなければなりません。

FIDEMハンガリー Ms.Virag Szabo

メダルが伝えたいことに応じて媒体を選ぶようにしていますので、課題はさまざまです。私にとっては、ほとんどが喜びです。複製されることを前提としている場合は、その過程で問題が生じることもあります。

FIDEMスウェーデン Ms.Kerstin Östberg



My Mother's Duet
Linda Verkaaik



Three Koi Fish in a Golden Pond
黄金の池の中の三匹の鯉
Lynden Beesley

説明無しに想いが伝わる形にすること。

FIDEM日本芸術メダル協会 大西 崇史さん

Q. アートメダルを鑑賞する際のポイントは？

手に持ち、愛撫することができること。根付けのように、メダルの感触を楽しむことができます。メダルは、あなたにメッセージを伝えることができなければなりません。嬉しいこと、悲しいこと、参考になること、対立すること。

FIDEMカナダ Ms.Lynden Beesley



My Pocket-Gardens II.
(A Drop of Silence)
Virag Szabo

手のひらに収まる小さな物体に、意味が込められています。それを人に見せて、対話を始めることができます。

FIDEMスウェーデン Ms.Kerstin Östberg



When the sage points at the moon the fool looks at the finger
Kerstin Östberg

手に取り、ある人から他の人へ届くようにメッセージを持って鑑賞します。

FIDEMオランダ Ms.Linda Verkaaik



GRIP 2
Linda Verkaaik

アートメダルは、手のひらに収まるサイズでなければなりません。欠かせないものであり、メッセージ性があること。クラシックであったり、モダンであったり。質実剛健で、細心の注意を払って作られていること。

FIDEMハンガリー Ms.Virag Szabo

難しいことは考えない。自分が好きだと思えるメダルを見つける事。

FIDEM日本芸術メダル協会 大西 崇史さん



FIDEM（フィデム）国際メダル連盟は「芸術メダル（アートメダル）」の普及・振興を目的とする国際的な団体です。

1937年にパリで設立され、会員構成には、彫刻家・メダル作家、鑄造製作会社、造幣局、美術館、ギャラリー、研究機関、大学、コレクターなど、多様な関係者が含まれます。加盟国数は2025年現在、45か国です。

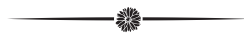
FIDEM の活動は国際メダル展覧会とコンGRES（世界メダル会議）です。メダル芸術に関する国際展覧会・会議を、原則として隔年（2年に一度）、さまざまな国で開催します。

1938年以降、“Médailles” という雑誌を定期的に発刊し、展覧会の記録や論文、作品などを掲載しています。

日本芸術メダル協会（JAMA）は1969年以来、国際メダル連盟（FIDEM）に加盟しています。

近年ではアジアで初の開催となった日本大会（FIDEM TOKYO 2020 第36回フィデム国際メダル展／世界会議）が東京で開催。

それに伴ってホスト組織として 一般社団法人FIDEM JAPAN も設立され日本芸術メダル協会と共に企画運営しました。

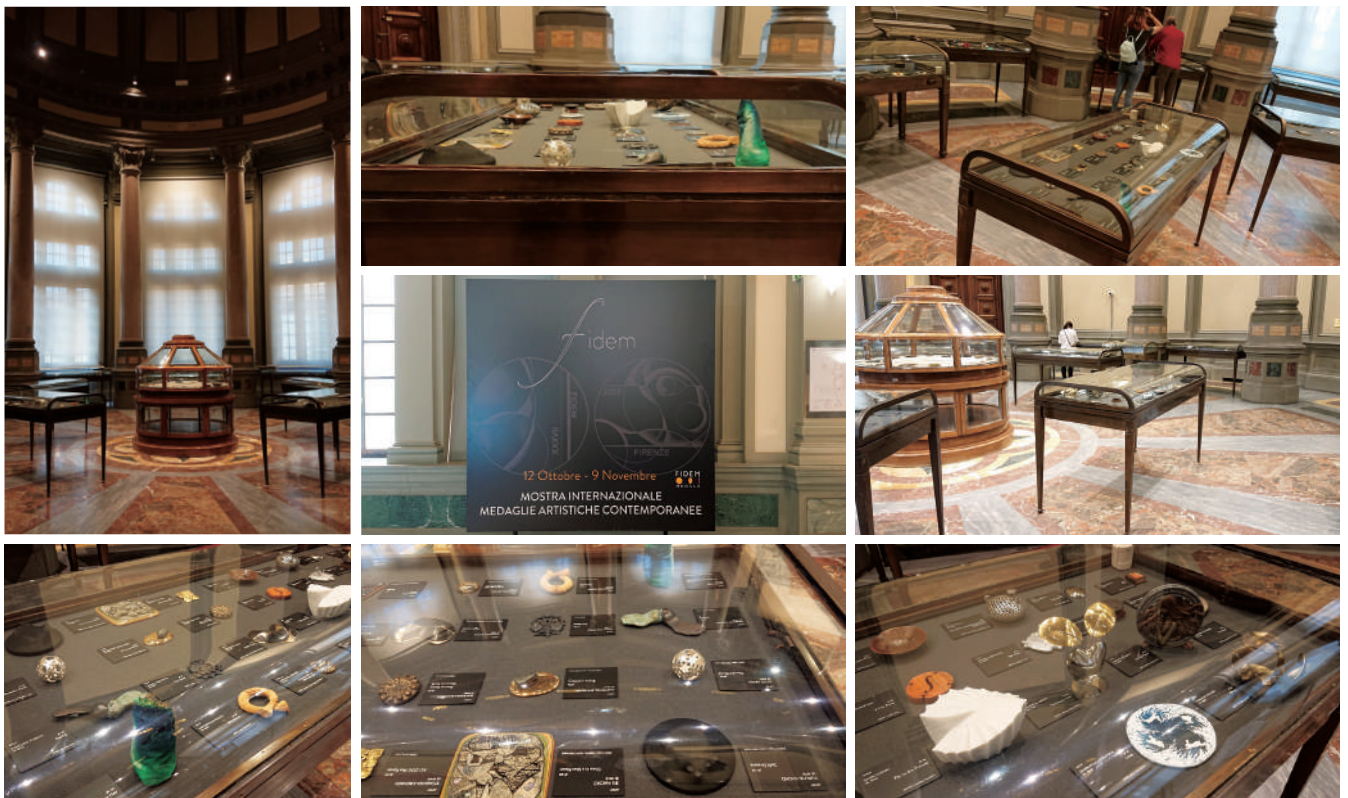


【第 37 回 FIDEM Florence（フィレンツェ）世界メダル会議および国際メダル展】

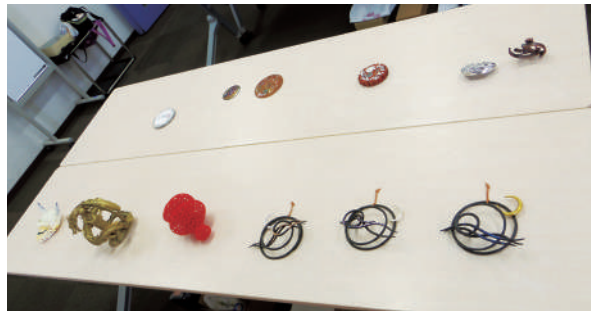
XXXVII FIDEM - FLORENCE 2023

2023 年の FIDEM 国際メダル展の時の写真です。

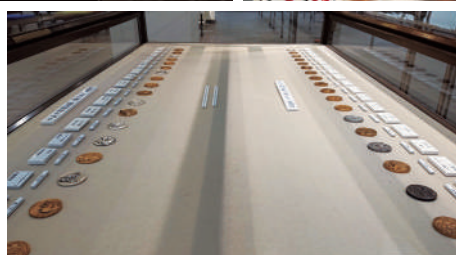
日本芸術メダル協会の会員からは 27 名が出品しました。



審査風景



過去の展示風景



〔 日本芸術メダル協会の歴史について 〕

日本芸術メダル協会は、1968年（昭和43年）日本におけるメダル芸術の向上と発展を目的として結成された。会員は作家、メダル製造業者、コレクターからなり、結成後ただちに国際メダル連盟に正式加盟した。国際メダル連盟（Federation Internationale de la Medaille d'Art 通称FIDEM）は、1938年パリにおいて結成された組織で、定期的（隔年）に国際アートメダル展をおこなう唯一の団体である。隔年に各国が招致、持ち回りでレベルの高い国際展を開催しており、その運営には当該国の造幣局、政府機関、また美術家連盟、メダル団体などが当たっている。1968年以来、日本芸術メダル協会は、このFIDEM主催の展覧会の日本の窓口として、日本の美術家に奉仕すると共に毎年国内展を開催し、日本のレリーフ芸術、メダル芸術の向上と発展に努めている。

〔 沿革 〕

1968 「ゴリ・エ・ズッキ」メダル国際コンクール（トリノ・イタリア） 上記出品作品国内展示（大和銀行上野支店会議室・東京） スペイン大蔵省主催国際メダル展（マドリード・スペイン）	1991 第21回創作メダル彫刻展（松陰画廊・世田谷区成城）
1969 第1回国内展（大和銀行会議室・上野） 「ゴリ・エ・ズッキ」メダル・コンクール（アレツツォ・イタリア） 第13回FIDEM国際アートメダル展（ブラハ・チェコスロヴァキア）	1992 第22回創作メダル彫刻展（小田急百貨店・ハルク工芸館）～創立25周年～ 第23回FIDEM国際アートメダル展（ロンドン・イギリス）
1970 第2回国内展（大和銀行会議室・上野） 「ゴリ・エ・ズッキ」メダル・コンクール（アレツツォ・イタリア）	1994 第23回創作メダル彫刻展（ギャラリー・ロイヤルサロンギンザ・銀座） 第24回FIDEM国際アートメダル展（ブダペスト・ハンガリー）
1971 第3回国内展（伊勢丹デパート画廊・東京） 第14回FIDEM国際アートメダル展（ケルン・西ドイツ） メダル国際コンクール（フィラデルフィア・アメリカ）	1996 第24回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 第25回FIDEM国際アートメダル展（ヌシャテル・スイス）
1972 第4回国内展（大和銀行会議室・上野）	1998 第25回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 第26回FIDEM国際アートメダル展（ハーグ・オランダ）
1973 第5回国内展（大和銀行会議室・上野） 第15回FIDEM国際アートメダル展（ヘルシンキ・フィンランド）	2000 第26回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 第27回FIDEM国際アートメダル展（ワイマール・ドイツ）
1974 第6回国内展（翔雲堂画廊・赤坂）	2002 第27回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 第28回FIDEM国際アートメダル展（パリ・フランス）
1975 国際メダルコンクール（パリ・フランス）	2004 第28回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 第29回FIDEM国際アートメダル展（セイサル・ポルトガル）
1976 第16回FIDEM国際アートメダル展（クラコー・ポーランド） 第7回国内展（大丸デパート画廊・大阪） この年より「造幣局長賞」	2006 第29回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 2007 第30回FIDEM国際アートメダル展（コロラドスプリングス・アメリカ）
1977 第8回国内展（松崎画廊・銀座） 第17回FIDEM国際アートメダル展（ブダペスト・ハンガリー）	2008 第30回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日）～創立40周年～ 2010 第31回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 第31回FIDEM国際アートメダル展（タンペレ・フィンランド）
1978 第9回国内展（大丸デパート画廊・東京）～創立10周年～	2012 第32回創作メダル彫刻展（文京区シビックギャラリー・春日） 第32回FIDEM国際アートメダル展（グラスゴー・イギリス）
1979 第10回国内展（大丸デパート画廊・東京） 第18回FIDEM国際アートメダル展（リスボン・ポルトガル） この年より「文部大臣奨励賞」及び「後援」	2014 第33回創作メダル彫刻展（東京都美術館・上野） 第33回FIDEM国際アートメダル展（ソフィア・ブルガリア）
1980 第11回創作メダル彫刻展 この年より「国内展」を改称	2016 第34回創作メダル彫刻展（東京都美術館・上野） 第34回FIDEM国際アートメダル展（ヘント・ベルギー）
1981 第12回創作メダル彫刻展（みやざき画廊・大阪駅前第三ビル）	2017 第35回創作メダル彫刻展（東京都美術館・上野）
1982 第13回創作メダル彫刻展（大丸デパート画廊・東京） この年より「朝日新聞社賞」	2018 第35回FIDEM国際アートメダル展（カナダ・オタワ） 第36回日本アートメダル展（東京都美術館・上野）
1983 第19回FIDEM国際アートメダル展（フィレンツェ・イタリア）	2020 第37回日本アートメダル展（東京都美術館・上野）
1984 第14回創作メダル彫刻展（関東百貨店健康保険会館）	2021 第38回日本アートメダル展（東京都美術館・上野） 第36回FIDEM国際アートメダル展（日本・東京）
1985 第15回創作メダル彫刻展（京王デパート画廊・新宿） 第20回FIDEM国際アートメダル展（ストックホルム・スウェーデン）	2022 第39回日本アートメダル展（東京都美術館・上野）
1986 第16回創作メダル彫刻展（東京弥生会館・根津）	2023 第37回FIDEM国際アートメダル展（フィレンツェ・イタリア） 第40回日本アートメダル展（東京都美術館・上野）
1987 第17回創作メダル彫刻展（タカゲン画廊・銀座） 第21回FIDEM国際アートメダル展（コロラドスプリングス・アメリカ）	2024 第41回日本アートメダル展（東京都美術館・上野）
1988 第18回創作メダル彫刻展（タカゲン画廊・銀座） 創立20年	2025 第38回FIDEM国際アートメダル展（ミュンヘン・ドイツ）
1989 第19回創作メダル彫刻展（タカゲン画廊・銀座）	
1990 第20回創作メダル彫刻展（小田急百貨店・新宿） 第22回FIDEM国際アートメダル展（ヘルシンキ・フィンランド）	



[J.A.M.A – JAPAN ART MEDAL ASSOCIATION]

Japan art medal association is run by artists, manufacturers, educational institutions, and collectors. Our aim is to foster and preserve artistic appreciation by society.

Our main endeavors are domestic exhibition (every other year) of creative medal sculpture and passionate submission and participation within the international exhibitions sponsored by the International Art Medal Federation (F.I.D.E.M).

First established in 1968, we have gone through many changes and conquered diverse challenges over the years, making us the vibrant association we are today. Our goal is to maintain this unique expression of Japanese art medal for future generations and medal exhibitions.

We continue to support Japanese artists, promote our industry's culture and establish networks between manufacturers. Our objectives is to encourage the creation of "medals which are useful in the world," "medals which are memorable to people," and "medals which move emotionally." for art lovers around the world.

For the last 55 years, we have had the unique opportunity to serve a passionate medal art community in our country.

And will continue to act as a catalyst for Japanese medal art world audiences, artists, curators, and collectors- helping them grow and thrive into the future.

Japan art medal association - J A M A -

主 催：日本芸術メダル協会(JAMA) <https://jama-artmedal.jp>
後 援：独立行政法人造幣局
協 賛：(株)コモキン 鈴木徽章工芸(株) ヤマト徽章(株) 松本徽章工業(株) (株)天賞堂
三賞(株) (株)山城工芸 松下徽章(株) (株)フジプライズ (株)大淵銀器
お 問 合 せ：日本芸術メダル協会事務局
〒113-0023 東京都文京区向丘1-9-15 (三賞株式会社内) TEL03-3868-3327